

トンボ池のトンボ相Ⅱ ～南方系のトンボの侵略～

熊本県立済々黌高等学校 生物部 2年 山下 賢斗 ほか 8名

1 目的

坪井川遊水地の生物相の調査をしていく中で多数のトンボが生息しているのに気づき、興味をもったのでトンボ相の調査をすることにした。

2 調査内容

- (1) 調査期間 平成23年10月～平成24年10月の放課後や休日に行った。
- (2) 調査場所 2年前から調査を行っている熊本県熊本市坪井川遊水地にある池B-②（通称トンボ池）。トンボが多く生息しており見渡しが良く、採集や観察がしやすい場所である。また、アオビタイトンボの生息が確認されている熊本市立田山にある池の調査も行った。
- (3) 調査方法 トンボ池に生息しているトンボの成虫と幼虫を目視、カメラ、ビデオ、虫網を用いる捕獲等を中心として記録した。採集などにより自分たちで分類が可能な種を記録した。また、トンボでの翅に標識をつけての追跡調査や標識再捕法を行った。ヤゴを手網で捕獲し室内で飼育し、羽化したトンボの種類を調べた。
- (4) 文献調査 トンボの同定及び、生態、記録等を図鑑やインターネットなどで調べた。

3 調査結果

- (1) 3年間の調査の結果 3年間の調査をしてトンボ池において熊本で確認されているトンボ96種の内27種の成虫、9種の幼生を確認することができた。（表1）

今年新たに記録できた種はアジアイトンボなど7種でいずれも確認個体数は少なかった。昨年聞き取り調査で記録したコフキヒメイトトンボは確認できたが、リュウキュウベニイトトンボは確認できなかったため未記録とした。この中で、コフキヒメイトトンボは絶滅危惧種、ベニイトトンボとウチワヤンマは準絶滅危惧種である。

4 考察

3年間の調査でトンボ池には最近進出してきた南方系のトンボも含む多数のトンボが生息していることがわかった。また、熊本県周辺の池を調査しても南方系のトンボの姿はあまり見られなかった。また、9種のトンボのヤゴを確認したことで、繁殖地として利用されていることがわかった。また、生息数の減少が心配され、絶滅危惧種であるコフキヒメイトトンボが多数確認され、準絶滅危惧種であるウチワヤンマが3年連続確認された。トンボ池がトンボの生息に良い環境であることを示している。

アオビタイトンボが3年間の調査で確認され今回の調査で多数生息していることがわかった。生息場所はトンボ池と立田山の池で確認できたが、他の生息地の存在も考えられる。また、ヤゴは発見できなかったため繁殖地の調査も必要である。

分布の広がりが心配される南方系トンボのアオビタイトンボは両方の池で確認された。準絶滅危惧種のキイトトンボやベニイトトンボの生息を脅かすリュウキュウベニイトトンボは立田山の池で見られた。準絶滅危惧種であるウチワヤンマの生息を脅かすタイワンウチワヤンマはトンボ池で確認された。イトトンボ類の生息に大きな影響を及ぼしているアオモンイトトンボの大繁殖も確認できた。今後の変化が心配である。

表1

種名	トンボ池	
	成虫	幼生
コフキヒメイトトンボ	◎	
ベニイトトンボ	◎	○
アオモンイトトンボ	◎	○
アジアイトンボ	△	
クロイトトンボ	○	○
セスジイトトンボ	△	
モノサシトンボ	◎	○
オオアイトトンボ	△	
ハグロトンボ	○	
フタスジサナエ	△	
ウチワヤンマ	○	○
タイワンウチワヤンマ	○	
クロスジギンヤンマ	△	
ギンヤンマ	○	◎
トラフトンボ	△	
オオヤマトンボ	○	
シオカラトンボ	○	○
オオシオカラトンボ	△	
ヨツボシトンボ	△	
アオビタイトンボ	◎	
コフキトンボ	○	
マユタテアカネ	○	
リスアカネ	○	
コシアクトンボ	○	◎
ウスバキトンボ	◎	
チョウトンボ	◎	
合計	26種	8種

記録 ◎：多く見られた種
○：見られた種
△：姿は少ないが見られた種
平成23年10月～平成24年10月